

多剤耐性アシネトバクター属についてよくある質問

- ・多剤耐性菌とは多くの抗菌薬が効かなくなった細菌のことです。
- ・健康な方では一般的に身体の中に入ったり、皮膚・粘膜の表面に付いたりするだけではすぐに病気になるわけではありません。
- ・身体の抵抗力が落ちているときには多剤耐性菌による感染症にかかることがあり、この場合、抗菌薬が効きにくいいため治療が難しくなります。
- ・多剤耐性でないアシネトバクターは自然環境や動物の糞便の中からはしばしば検出される環境菌です。

Q1：多剤耐性菌はなぜ問題なのですか？

A1：多くの抗菌薬に対して耐性を獲得していることが多く、感染症を引き起こすと治療が難しくなるからです。

Q2：治療薬はないのですか？

A2：検出された耐性菌に対する感受性試験（抗菌薬の効果があるかどうかを調べる検査）を行い有効な抗菌薬による治療が可能です。保険適応でない薬剤の使用を検討する場合があります。

Q3：多剤耐性菌はどんな病気をひきおこすのですか？

A3：肺炎、敗血症、創部感染症の原因となることが知られています。

Q4：多剤耐性菌について、日常的に注意することはありますか？

A4：健康な日常生活を送っている方々では、多剤耐性菌を過度に心配する必要はありません。

Q5：家族が「多剤耐性菌に感染している」と言われたら、どうしたらよいですか？

A5：患者様に感染した多剤耐性菌が家族にうつることはほとんどありません。しかし、手について菌が口から入って感染する可能性があるため、患者様に接触した後の手洗いを十分に行ってください。特に排泄後の手洗いを十分にお願ひします。

Q6：多剤耐性菌への感染予防のために病院で注意することはありますか？

A6：耐性菌は手指を通じて感染することが多いので、こまめな手の消毒をお願いします。入院、外来を問わず、トイレのあと、食事の前、病室（診察室）に入る前と出るとき、他の患者様と共有して使用するものに触れたとき、面会者や付き添いの人が病室（診察室）に入る前と出るとき、帰宅するときに行ってください。手の衛生には手指消毒剤が有効です。当院ではウェルピュアという手指消毒剤を設置してありますのでご利用ください。

Q7：多剤耐性菌感染予防のために病院ではどのような対策をしていますか？

A7：多剤耐性菌が検出された患者様は速やかに個室に移っていただき、「接触感染予防策」を徹底して実施しています。日頃から標準予防策と環境整備を徹底するよう努めています。

Q8：入院、通院、面会で病院に行ったことがあるのですが多剤耐性菌の検査をしてもらえますか？

A8：症状がなければ検査をする必要はありません。発熱、肺炎、傷が膿んでいて、抗菌薬による治療をしてもよくなる場合には詳しい検査をする必要があります。

Q9：多剤耐性菌に有効な消毒方法はありますか？

A9：加熱、アルコール製剤、次亜塩素酸ナトリウム（ミルトン、キッチンハイター）など一般的な消毒薬が有効です。

厚生労働省ホームページ「多剤耐性アシネトバクター、ニューデリー・メタロ-β-ラクタマーゼ1 (NDM-1) 産生多剤耐性菌について」より一部改編

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/multidrug-resistant-bacteria_ippan.htm

1（平成26年6月24日確認）